

令和3年度小中一貫教育推進計画書

中学校区名	昭和中学校区
代表者所属校 校長氏名	呉市立昭和中学校 金本 康司

1 目指す児童生徒像

- ・学習や体験したことを生かして学ぶ児童生徒
- ・自ら考え、判断し、自分の言葉で表現する児童生徒
- ・自他を大切にし、自らかかわり合う児童生徒

2 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・ 設定・ し 能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働する力
後期	基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている。	多面的・多角的に考察し、論理の展開の仕方や表現の仕方などを工夫して、効果的に表現することができる。	目標を明確にし、課題解決に向けて、見通しをもって、協働的に取り組もうとしている。
中期		複数の事柄や資料などを関連付け、根拠をもとに、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	自ら課題意識をもち、多様なメンバーと協働して課題を解決しようとしている。
前期		自分の立場や考えを明確にし、複数の事柄や資料について、比較、分類、関連付けてまとめて表現することができる。	課題解決のために身近な対象に進んでかかわり、意欲的に学習したり、生活したりしようとしている。

3 研究主題と設定理由

(1) 研究主題

「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成」

～「考える授業づくり」と「あたたかい集団づくり」を通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本中学校区では、平成30年度から「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成～聴いて考えてつなげる授業づくりを通して～」を研究主題として、学力向上と自尊感情を高める実践を重ねてきた。また、令和2年度には、副題を「～『考える授業づくり』と『あたたかい集団づくり』を通して～」に変更し、あたたかい聴き方ややさしい話し方を通して、児童生徒が安心して学び合う授業づくりや、互いに認め合い、高め合うことができる人間関係づくりの両面から研究に取り組んでいる。

児童生徒アンケート（令和2年度実施）の設問項目に対する肯定的回答は「授業中、友だちの考えや意見をよく聴いています」94.5%、「授業中、自分の考えや意見を分かりやすく説明しようとしています」83.4%、「あなたのよいところを分かってくれる友

だちがいます」90.3%、「自分には良いところがあります」82.2%であった。この結果から、これまでの取組により、相手の考えを聴こうとする意識や自己有用感が高まってきていると言える。

一方で、標準学力調査（令和2年度実施、中学校3学年については令和元年度の結果）において、正答率40%未満の児童生徒の割合が10%を超えた学年は、国語、算数・数学ともに9学年中6学年であった。また、国語、算数・数学ともに9学年中6学年で全国平均を下回った。この結果から、多くの学級で基礎的・基本的な知識や技能の定着が不十分な児童生徒が一定数存在していると言える。

また、思考力・判断力・表現力の観点別正答率が全国平均を下回った（国語：中学校区61.0%、全国平均63.1%、算数・数学：中学校区50.3%、全国平均53.7%）。この結果から、児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成が不十分であることが分かった。

40%未満の児童生徒の関心・意欲・態度の正答率は、国語17.9%（校区内平均55.7%、全国平均61.3%）、算数・数学14.3%（校区内平均48.8%、全国平均53.8%）であった。また、授業中「どうせできない」「分からないからもういい」などとなげやりな態度を見せる児童生徒もいる。このことから、児童生徒の主体性に関して、アンケート結果と実態との間にずれがあると言える。

以上のことから、本中学校区の児童生徒に共通する実態として、①「基礎的・基本的な知識や技能が身に付いていないため、考えがもてない。」、②「自分の思いや考えを自分の言葉で表現する力が乏しい。」、③「自尊感情が低く、主体的に取り組みにくく、受け身になりやすい。また、あきらめやすい。」という3つの課題が上げられる。

そこで、本年度も引き続いて研究主題を「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成」と設定し、「考える授業づくり」や「あたたかい集団づくり」を創造することで、児童生徒が主体的に参加し互いの意見を尊重し学び合う授業となり、課題が克服できると考えた。そのために、児童生徒の気づきを大切にしたい課題の設定や個に応じたきめ細かな指導により、全員が参加できる授業を目指す。また、相手を意識した聴き方や話し方の指導や児童生徒をほめる場・認める場の意図的な設定により、互いに認め合い、高め合うことができる人間関係づくりをしていくことが重要と考える。

全員が参加できる授業を実現することで、学習への達成感が得られ、学習意欲向上につながると考える。また、児童生徒が互いに認め合い、高め合いながら授業を進めることで学力の定着が図れると考える。以上のことから、児童生徒が主体的に参加し互いの意見を尊重し学び合う授業を創造することで、本中学校区で設定した資質・能力の育成に迫ることができると考え、本研究主題を設定した。

4 研究内容

(1) シンキング部会

- 知識・技能を活用して、主体的に思考・判断・表現する児童生徒の育成。
 - ・学力補充の時間を設けて基礎学力の定着を図る。
 - ・「昭和学びのスタイル」を通して、全員参加作戦を実施する。
 - ・見通しをもって学習に取り組めるように、「学びのレシピ」を活用する。
 - ・思考を深める発問の工夫を行う。
 - ・教職員アンケート実施により、「考える授業づくり」について教職員の意識統一を図る。
 - ・家庭学習の定着を図る。

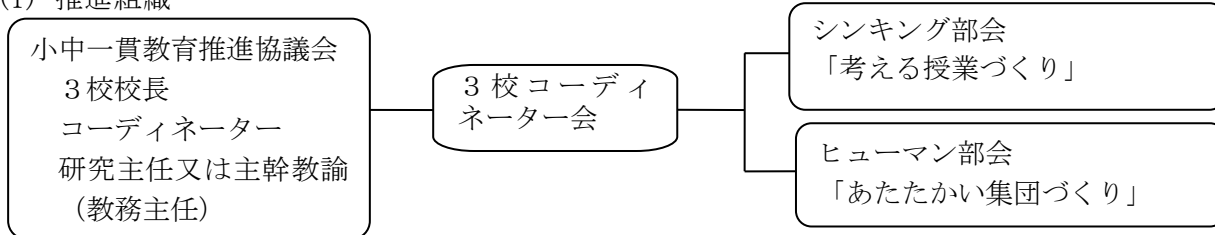
(2) ヒューマン部会

- 肯定的に他者と関わり合い、最後まで粘り強く取り組める児童生徒の育成。
 - ・教師がほめる場・認め合う場・つなげる場を意図的に設定し、児童生徒が分からないことや間違えることを躊躇せず発言できる環境づくりに取り組む。
 - ・各教室に「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を掲示し、相手を意識した聴き方と話し方の指導を徹底する。
 - ・児童生徒が成長を実感できるように、振り返りの視点を明確に示して指導を行う。
 - ・教職員アンケート実施により、「あたたかい集団づくり」について教職員の意識統一を図る。

- ・児童会や生徒会活動，ボランティア活動等で児童生徒同士のつながりを深め，自己有用感を高める。
- ・地域社会とのつながりの中から社会性を育て，社会貢献に努める意識を育てる。

5 推進体制

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業（中→小，小→中）

（中→小）

- ・昭和中央小学校第5学年 算数科（週2h実施）
- ・昭和中央小学校第6学年 算数科（週2h実施）
- ・昭和南小学校第5学年 算数科（週2h実施）
- ・昭和南小学校第6学年 算数科（週2h実施）
- ・吹奏楽部による演奏会（2学期実施）
- ・小6児童の把握と指導（3学期実施）

（小→中）

- ・中学校第1学年補充授業（夏季休業中）
- ・小6中1交流会（3学期実施）

イ 小学校教員同士の交換授業等

- ・なし

6 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

- 学力調査等において，正答率30%未満の児童生徒の割合を，小学校では国語・算数5%以下，中学校10%以下。
- 学力調査等の各観点の正答率において，それぞれ全国平均以上。
- 児童生徒の行動や記述内容の変容。
- 児童生徒アンケートにおいて，教師の指導に関する意識の向上。児童生徒の学習や他者との関わりに関する意識の向上。

(2) 検証方法

小中一貫教育児童生徒アンケート，定期テスト結果，単元まとめテスト
 全国学力・学習状況調査，標準学力検査
 教師による児童生徒の行動や振り返りの見取り

7 推進計画

月 日	内 容
4月2日	○全体研修（昭和中央小学校） ・基本方針，計画等の確認，本年度研究会に向けての小中一貫教育の組織づくり，年間計画の確認，情報交換 等
5月	○研究主題についての現状把握（事前アンケート）
6月	○授業研究・全体研修（昭和中央小学校） 指導・助言者 横浜国立大学教育学部人間科学部名誉教授 高木 展郎 ○協議会

	・夏季全体研修会の運営について
7月	○研究主題についての現状把握（アンケート） ○協議会 ・夏季全体研修会のまとめと進捗状況確認について
8月	○全体研修（昭和中央小学校） ・指導案，リーフレット，紀要等の検討，公開研のながれ確定
9月	○授業研究，全体研修（昭和中学校） 指導・助言者 横浜国立大学教育学部人間科学部名誉教授 高木 展郎
10月	○協議会 ・進捗状況把握と方向性の確認
10月25日	○昭和中学校区公開研究会（昭和中央小学校，昭和南小学校，昭和中学校） 指導・助言者 横浜国立大学教育学部人間科学部名誉教授 高木 展郎
11月	○協議会 ・公開研究会反省，今後の課題の整理 等
12月	○研究主題についての現状把握（アンケート） ○協議会 ・進捗状況把握と方向性の確認
1月	○授業研究・全体研修（昭和南小学校） ○協議会 年度のまとめに向けて進捗状況把握
2月	○協議会 ・課題の分析と来年度の取組について ○小6中1交流会
3月	○小6児童の把握と指導 ○協議会 ・年間のまとめ，来年度の基本方針及び計画の確認 ○全体研修（昭和中央小学校）

※コーディネーター会は協議会を受け，随時，連携を図る。

※各校の研修会には，随時参加する。

8 その他

小中一貫だよりの発行（学期に1回）